



Trinity



Environmental Report 2022



トリニティ工業株式会社

技術の力で 地球環境問題へ真摯に取り組み、 持続可能な社会へ貢献します。



代表取締役社長 玉木 利明

気候変動は世界各地で着実に進行しているようです。日本においても明らかに雨の降り方が変わり、水害で多大な被害が発生しています。また、海洋生物に深刻な影響を与えるプラスチックごみ問題に対処すべく、本年4月にプラスチック資源循環法が施行されるなど、環境問題に対する行政の動きも急となっています。

自動車業界においても、各社が電気自動車を続々と発表し、またカーボンニュートラル達成目標年を前倒しするなど、地球温暖化対策やサーキュラーエコノミー、SDGs/ESG などに対する取り組みを加速しています。私たちは、こうした社会課題への解決を提供できなければ、企業としての存在価値が問われる、との強い思いを新たにしております。

トリニティ工業は、省エネルギー・省資源型の設備・機器の開発と設置、あるいは自動車部品の環境に優しい生産・工法に、長年取り組んでおります。昨年は、こうした設備と部品の技術を結集し、CO₂排出量を70%削減した、オール電化の新しい塗装ラインの稼働を開始いたしました。また「熱・水・空気の総合エンジニアリング会社」としての知見と技術を塗装以外の分野にも活

用し、溶接工程の作業環境改善に貢献する新たな除塵装置を開発いたしました。このような活動をご評価いただき、トヨタ自動車株式会社殿より、2021年度『環境推進優良賞』および2021年度『技術開発賞』をいただいたことは、大きな励みとなっております。

本年度も成形工程でのリペレット化などの資源循環や、オンサイト太陽光発電を含めた再生可能エネルギーの導入など、地球環境貢献への取り組みを、地道に粘り強く進めていきます。

当社は、本年4月に中期ビジョン『TRINITY VISION 2030』を改訂し、「テクノロジーで地球にやさしい未来」を目指すことを掲げました。また6月には、E（環境）、S（社会）、G（企業統治）の各分野における取り組み方針をまとめた「サステナビリティ方針」を公表いたしました。

技術の力で地球環境問題へ取り組み、持続可能な社会に貢献していきたい、と考えております。皆さま方のご指導、ご支援を、心よりお願い申し上げます。

目次

01	—————	トップメッセージ
02	—————	目次
03	—————	会社概要
04	—————	事業紹介
05	—————	サステナビリティ方針 トリニティ環境基本方針
06	—————	環境取組と SDGs 環境推進優良賞を受賞
07	—————	設備部門 環境に配慮した設備開発と展開
09		● 塗装工程と主な環境技術 iX 塗装機（新型エアレス塗装機） 塗装工程のドライ集塵（水レス化） ECO オープン ● 塗装工程で培った技術の応用設備 ～溶接工程 循環式除塵装置～
10	—————	自動車部品部門 自動車部品生産における環境負荷低減活動
14		● ISO14001 を活用した環境マネジメント ● 自動車部品部門の環境取組プラン ● 環境取組の目標と結果 ● オール電化塗装ラインの新設による CO ₂ 排出量実質ゼロの実現
15	—————	コンプライアンスと環境リスク
		● コンプライアンス遵守 ● 環境リスク低減活動
16	—————	社会貢献・コミュニケーション活動
17		● 地域貢献活動 ● 社会福祉活動 ● 地域行政との協働
18	—————	環境啓発活動
		● SDGs 強化月間 ● 環境月間 ● 教育
19	—————	第三者意見

会社概要

会社概要

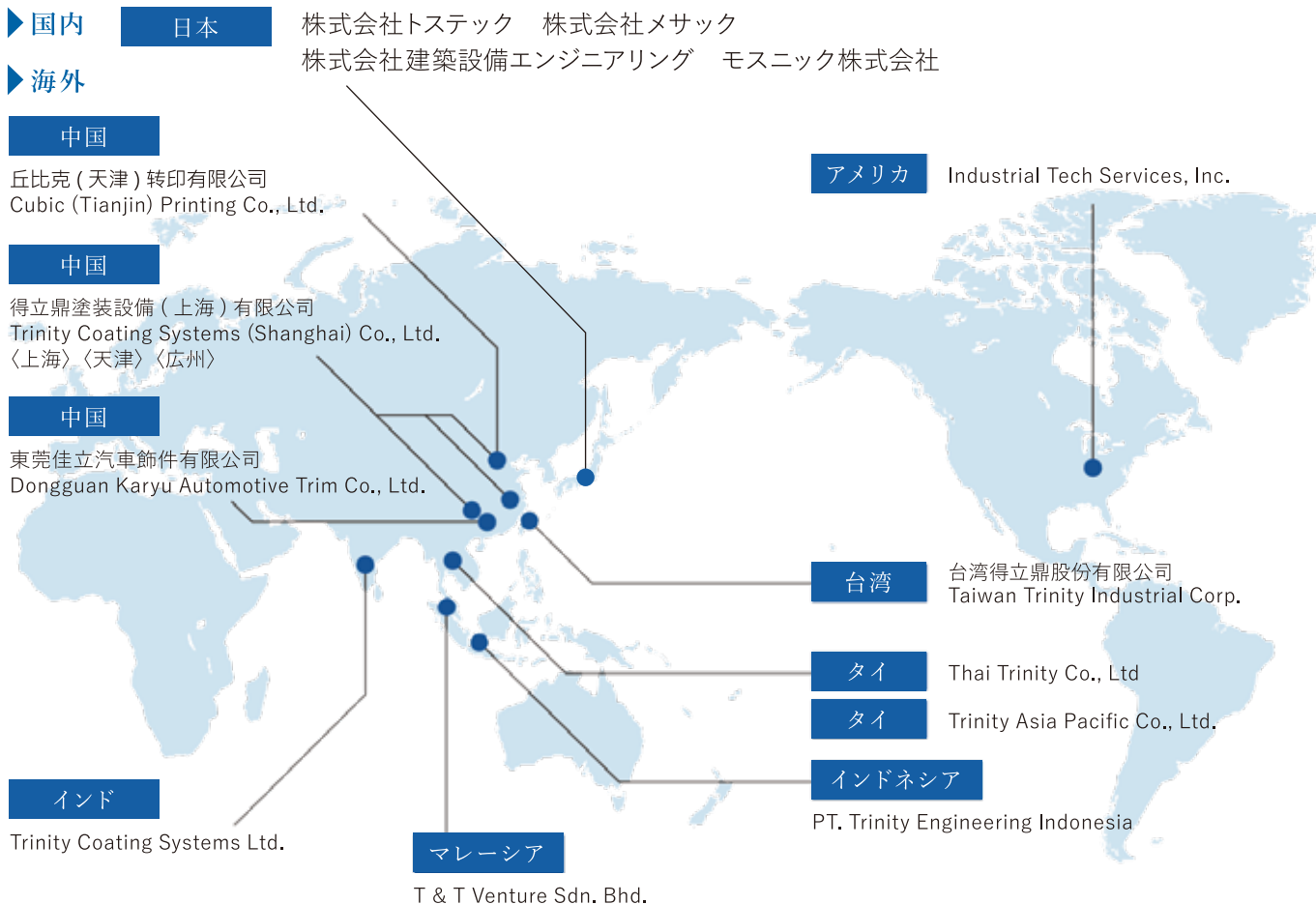
創立	1980年7月1日
本社所在地	愛知県豊田市柿本町1-9
資本金	13億1,100万円
売上高	連結：342億円 単体：268億円（2022年3月期）
従業員数	連結：964名 単体：776名（2022年3月31日現在）
事業内容	「塗装プラント」「塗装システム」「産業機械」の設計、製作、施工 「自動車部品」の製造

事業所



東京支店 大阪支店 東北営業所 田原営業所 九州営業所

主な関係会社



事業紹介

事業紹介 トリニティ工業は、設備事業と部品事業の2つの事業分野で活動しています。

◆設備部門

お客様の塗装工場のプランニング・設計・製作・据付からアフターサービスまで一貫したサービスをご提供します。

塗装プラント

塗装工程の入口から出口まで、最新の環境技術でご提案いたします。



前処理装置



電着装置



塗装ブース・空調装置



乾燥炉

塗装システム

塗料供給システム

塗料吐出量を制御して塗装の膜厚を調整したり、塗料用・洗浄用バルブにより色替え作業を行い、様々な塗色を塗装することができます。



塗装ロボットシステム

塗装品質の安定化、生産性の向上を図ります。



塗装機

用途に合わせた様々な塗装機をご用意しています。



ix 塗装機



非静電ペル



自動エアガン



カラーチェンジバルブ



モジュール CCV



フラッシュャブルギアポンプ

◆自動車部品部門

一貫生産体制で企画・設計から成形、加飾、組付けまでの一貫事業を展開しています。



フィードバック新規商品のご提案

主な製品

内装部品（塗装・水圧転写・レーザーエ加飾）



センタークラスターパネル



ステアリングホイール



コンソールパネル



スイッチベースパネル

外装部品（塗装）



ロッカーモール

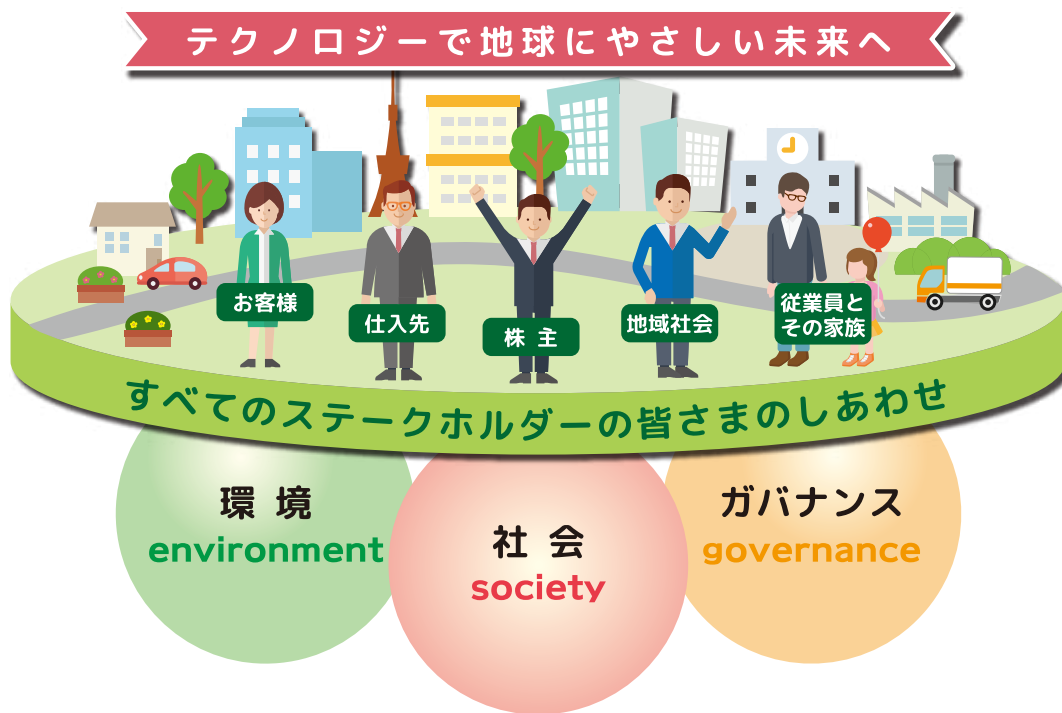


フロントグリル

サステナビリティ方針

私たちは、社是「信頼と創造」のもと、安全・品質・お客様第一を大切にした企業活動を通じて、社会に必要とされる会社を目指しています。熱・水・空気の総合エンジニアリング会社である私たちだからこそ提供できるテクノロジーで、地球にやさしい未来へ貢献すること。

そして、ともに働く多様な人材が SDGs の理念に共感し、自ら考え行動すること。これらの取り組みを通して、現在から将来にわたり、私たちに関わるすべての皆さまのしあわせが広がり、持続可能な発展につながるよう努力してまいります。



環境

自然環境と生活環境に配慮した革新技術の開発・発展に絶えず努め、環境保全に取り組み、住みよい地球環境に貢献していきます。

社会

トリニティ工業に関わるすべてのステークホルダーのよろこびと感動を生むことを目指し、良き企業市民として、豊かな社会づくりに取り組みます。

ガバナンス

関係法令の遵守はもちろんのこと、ステークホルダーの方々との対話などを通じて、オープンかつクリーンで公正な企業活動に努めます。

トリニティ環境基本方針

01

国、地方自治体などの環境法規等を遵守するとともに、自主管理基準の目標を定め、達成することで、環境保全の向上に努める。

02

当社の保有技術を更に向上させ、環境に配慮した製品技術開発に努め、排出物・廃棄物の発生やエネルギー消費量の少ないモノづくりに継続的に取り組む。

03




生産活動が環境に及ぼす影響を予測・評価し、一人ひとりの自覚と責任において生産工程の自主管理に努め、環境に配慮した取り組みを推進する。

04

より良い地球環境の実現をめざし、企業活動のみならず、良き企業市民として社会や地球に貢献する為、社内の力を結集し、環境保護にも積極的に取り組む。

環境取組と SDGs

トリニティ工業は、環境基本方針のもと、地球温暖化対策やサーキュラーエコノミーを通じて、環境問題に取り組み、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指しています。

主な取組	取組事例	関連する主なSDGs
地球温暖化防止への貢献	①自社のCO ₂ ゼロ・カーボンニュートラルに向けた活動 <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量の見える化と低減 ・不良率低減、稼働率向上などの効率的な生産 ・再生可能エネルギーの導入 ②お客様のCO ₂ ゼロに貢献できる設備の開発・導入	  
省資源で環境にやさしい製品づくり	①水環境インパクトを低減する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・排水処理、水質管理 ・水レス化等に貢献する設備の開発・導入 ②化学物質、廃棄物の管理・削減 ③原材料の削減 <p>および省資源に貢献する設備の開発・導入</p> ④生産時の廃棄プラスチックの再資源・再利用	    
環境技術革新	①新たな環境技術の開発 ②技術発表・表彰等を通じたイノベーションの促進	  
生物多様性・社会貢献	地球にやさしい未来へ繋げるため、私たち一人ひとりが自然の生態系の一員・地域社会の一員として取り組みを開始 ①自然と共生する社会 ②地域貢献への活動	      

環境推進優良賞を受賞

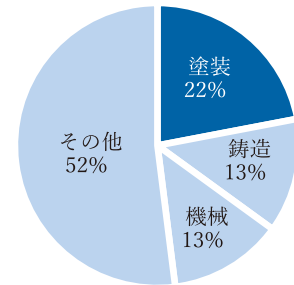
2022年3月、トヨタ自動車株式会社より、2021年度「環境推進優良賞」を受賞しました。今回の受賞は、当社の活動がトヨタ自動車株式会社の地球環境に配慮した取り組み、特にカーボンニュートラルへの着手・推進に貢献したことが評価されたものです。今後もサステナビリティ方針のもと、環境に配慮した革新技術の開発・発展に向けた取り組みを推進してまいります。



CO₂ 排出量と水使用量を抑えた エンジニアリング技術で貢献

自動車製造工程の中でも CO₂ 排出割合の高い塗装工程を担う会社として、前処理から上塗り・乾燥までのすべての塗装工程において、当社ならではの環境にやさしい先進技術を提供し、お客様の工場の環境負荷低減に貢献しています。

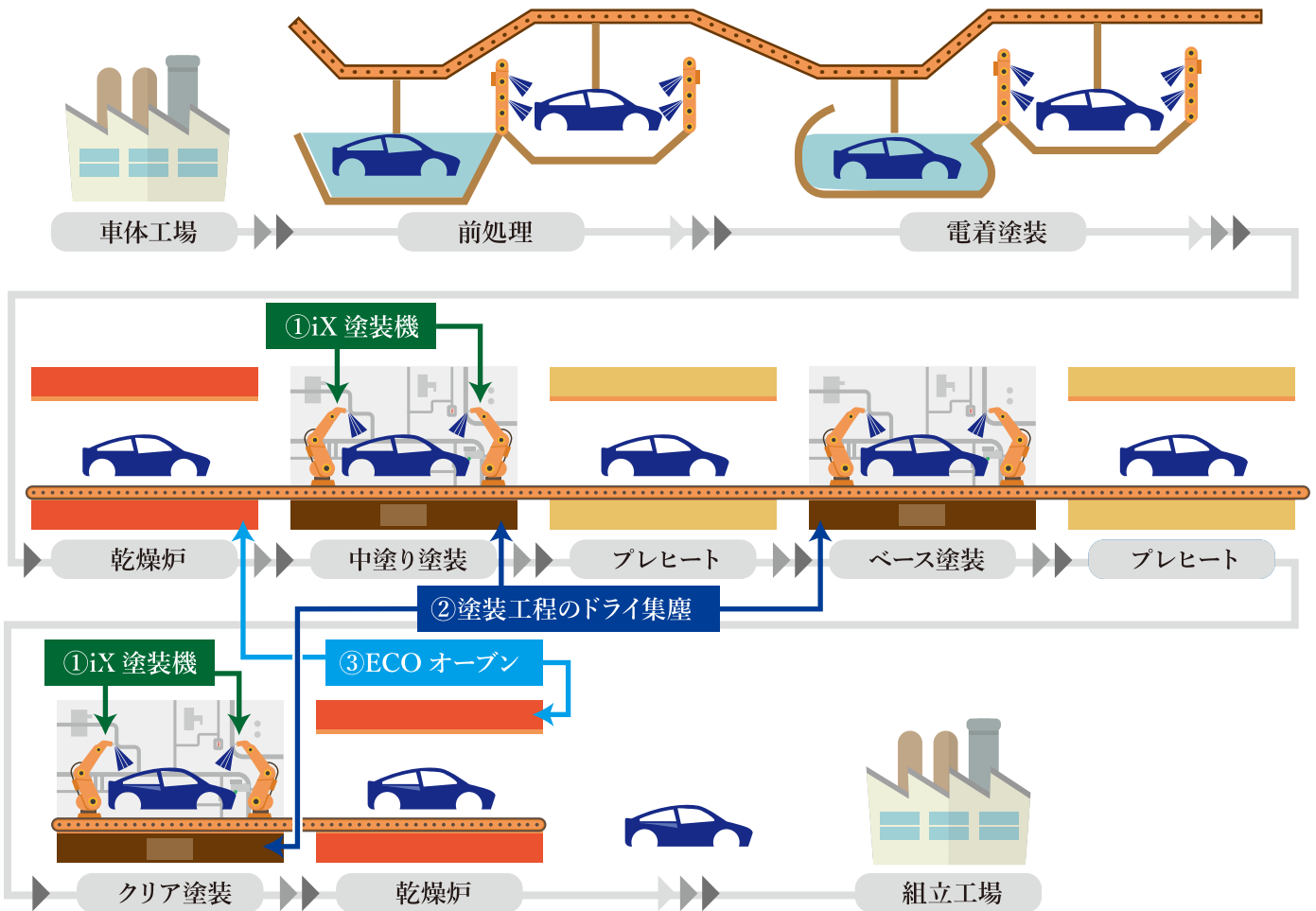
自動車製造工程別 CO₂ 排出割合



④ 塗装工程と主な環境技術

塗装には、製品の表面を保護し、美しく仕上げるため、様々な工程があります。例えば、お化粧品には、洗顔、基礎化粧品、化粧下地、ファンデーションなどがあるように、塗装工程にも洗浄、下塗り、中塗り、上塗り、乾燥などの工程があり、それぞれの工程で水、薬品、空気などの加熱・冷却が必要となるなど、多くのエネルギーが必要となります。これらの工程においてエネルギー使用量を低減したり、水レス化を実現したりする技術・設備を開発し、提供しています。

当社における環境に配慮した主な塗装設備





① iX 塗装機（新型エアレス塗装機）

静電気を活用した先進技術で、世界最高水準の塗着効率を実現

自動車塗装工程で従来から使用しているエアスプレー式の塗装機に代わり、静電気を最大限活用して空気の流量を抑え、塗着効率の高い新型塗装機を開発し、CO₂ 排出量を約 30% 低減しました。

従来	新開発	効果
エアスプレー式塗装機	エアレス静電塗装機	塗料のミストの跳ね返りが少ない為、ブース風量を低減することができ、省エネに貢献します。また、跳ね返りが少ないとブース内も汚れにくくなり、清掃が簡略化できます。
塗着効率 60~70%	塗着効率 95%以上	
<p>塗料ミストの跳ね返りが多く、塗着効率が高い</p> <p>風量大</p>	<p>※自動車ボディの例</p> <p>塗料ミストの跳ね返りがなく、塗着効率が高い</p> <p>風量小</p>	
		<p>ブース風量低減による効果</p> <p>CO₂ 排出量</p> <p>従来 新開発</p> <p>△30%</p>

特許取得済

② 塗装工程のドライ集塵（水レス化）

高効率フィルタの開発により水を使用しない集塵装置を実現

塗着しなかった塗料ミスト（塵）を、従来は水を使って集めていましたが、水レス化の集塵技術を開発し、水使用量をゼロにし、CO₂ 排出量を約 30% 低減しました。

従来ブース	新開発 ドライブース	効果
塗料ミストを水にあてて集塵する 洗浄集塵	高効率フィルタによる 乾式集塵	<p>水使用量</p> <p>従来 新開発</p> <p>△100%</p> <p>CO₂ 排出量</p> <p>従来 新開発</p> <p>△30%</p>
<p>整流室</p> <p>吹付室</p> <p>洗浄装置</p>	<p>整流室</p> <p>吹付室</p> <p>高効率フィルタ</p>	
	水の循環が不要で、圧力損失が低く、ファンの負荷を低減	

特許取得済

③ ECO オープン

乾燥炉の小型化と新型増幅ノズルの適用による昇温時間短縮

塗装した後の乾燥炉の炉内空間を究極までコンパクトにするとともに、効率的に熱風をあてることができる新型の送風ノズルを開発し、ワーク（ボディなど）の暖まりにくい場所に配置することにより、省エネ乾燥が可能となり、CO₂ 排出量を約 20%低減しました。

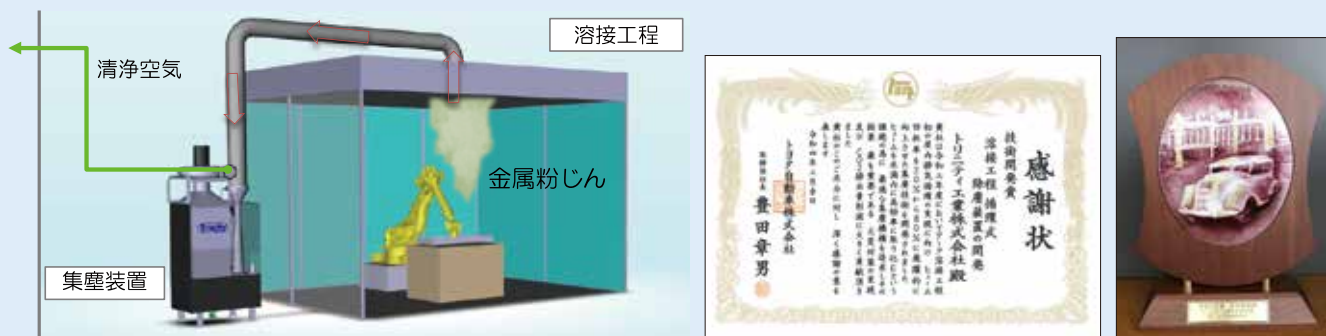
従来	新開発	効果
<p>炉の断面図</p> <p>9m 炉幅</p> <p>車ボディ (処理品)</p> <p>内部ダクト</p> <p>従来ノズル</p>	<p>炉の断面図</p> <p>容積比△56%</p> <p>6m 炉幅</p> <p>車ボディ (処理品)</p> <p>内部ダクト</p> <p>新型増幅ノズル</p> <p>ノズルの周囲の熱風を巻き込み、増幅量大きい</p>	<p>炉内空間を最小にできるように、断面形状と内部ダクト配置をリニューアルし、効率的な昇温が可能となりました。また、新型増幅ノズルを採用し、熱風を効率よくあてることと併せて省エネ乾燥を実現</p> <p>CO₂ 削減率</p> <p>従来 新開発</p> <p>△20%</p>

特許取得済

塗装工程で培った技術の応用設備 ～溶接工程 循環式除塵装置～

溶接時発生金属粉じんの効率的な除塵による火災対策

塗装工程の集塵技術を発展させて、溶接時に発生する煙状の金属粉じんを除塵する装置を開発しました。従来の装置より除塵性能が約 40% 高く、クリーンな状態で排気することが可能となりました。また、水を使用した除塵方式で、溶接時に発生する火種を消火し、発火を未然に防ぐことができる安全な除塵装置となります。この集塵装置はトヨタ自動車株式会社より、2021 年度「技術開発賞」を受賞しました。





ISO14001 を活用した環境マネジメント

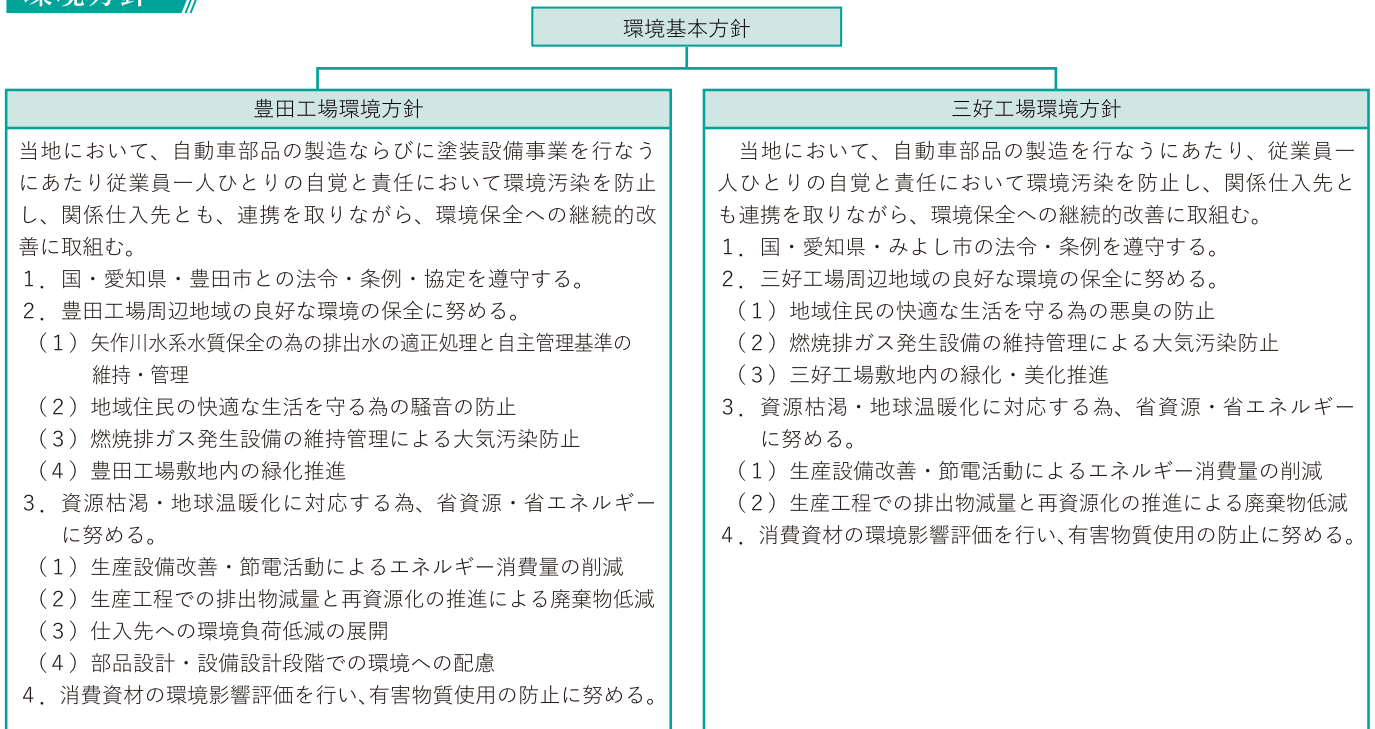
当社は、豊田工場・三好工場の2事業所で自動車部品を中心とする生産活動を行っており、製品の製造やサービスの提供などによる環境への負荷を最小限にすることは、企業としての責務と考えています。こうした環境負荷低減活動を継続的に実施するべく、環境マネジメントに関する国際的な規格である ISO14001 の認証を豊田工場においては 2000 年に三好工場は 2008 年に取得しました。そして、直近では 2021 年 9 月に更新審査を受審し、環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認しています。ISO14001 の仕様に則り、環境方針と目標を設定し、その目標に向けた各部門の取り組みを PDCA を回して推進管理し、達成状況については、工場環境委員会で共有し推進しています。ISO14001 の活動を通じて、更なる改善を図り、環境保全を推進してまいります。



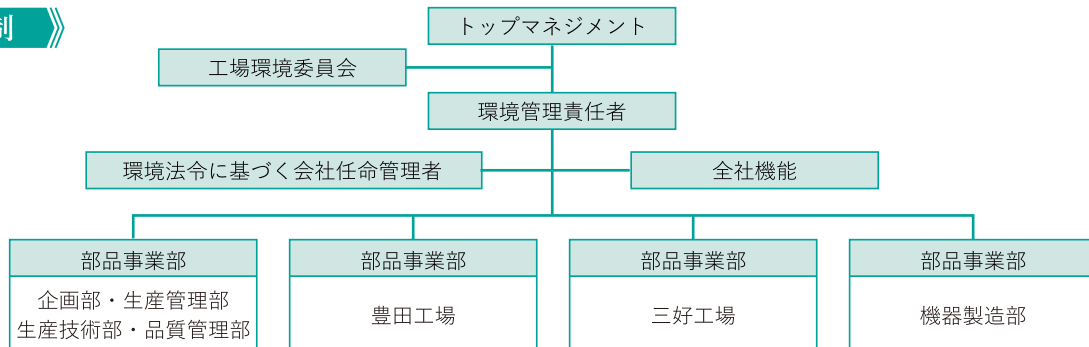
ISO14001 の審査の様子



環境方針



推進体制





自動車部品部門の環境取組プラン

トヨタ自動車の関連会社で取り組んでいるオールトヨタ第 7 次環境取組プランを受け、CO₂ 排出量、排出物排出量、PRTR* 対象化学物質取扱量において、2021 年度～2025 年度の 5 年間の中長期目標を設定して活動しています。

* 人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質の排出・移動量の把握と届出を義務付ける制度

地球温暖化防止	環境負荷物質の管理・低減
<p>取組 エネルギー消費量の削減</p> <p>対象 CO₂排出量（総量）</p> <p>目標 2025年 2013年比25%低減</p>	<p>取組 有害物質使用の防止</p> <p>対象 PRTR 対象化学物質取扱量（原単位）</p> <p>目標 2025 年度 2020 年度比 5% 低減</p>
排出物低減と省資源	水資源の節約と水質保全
<p>取組 再資源化と廃棄物低減</p> <p>対象 排出物排出量（原単位）</p> <p>目標 2025 年度 2020 年度比 5% 低減</p>	<p>取組 省資源、水環境改善</p> <p>対象 水使用量（原単位）</p> <p>目標 2025 年度 2020 年度比 5% 低減</p>

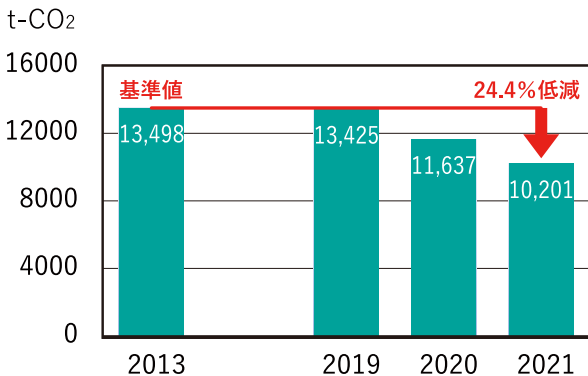
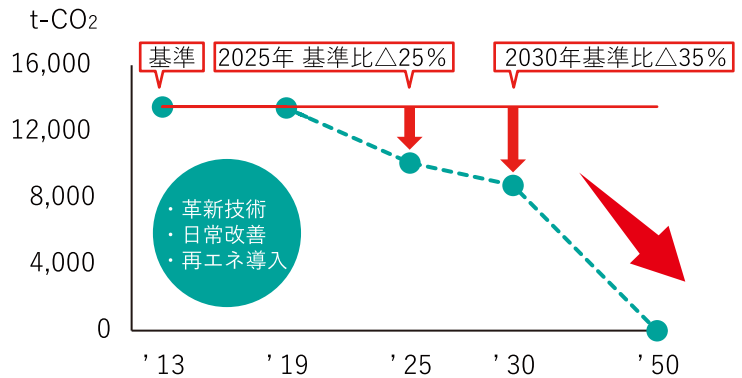


※2021 年度は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大や半導体不足等の影響により、日本全体で自動車の生産が低減となりました。

環境取組の目標と結果

01 地球温暖化防止

トヨタ第 7 次環境取組プランを受け、CO₂ 総排出量の低減目標を設定して活動しています。2019 年に「工場 CO₂ ゼロチャレンジプロジェクト」を立ち上げ、2025 年 25% 低減、その先の 2030 年 35% 低減を目指し、日常改善や新技術の導入、再エネの導入など、幅広く取り組んでおります。またその先も CO₂ 低減活動を続け、長期的には CO₂ 排出量実質ゼロを目指します。

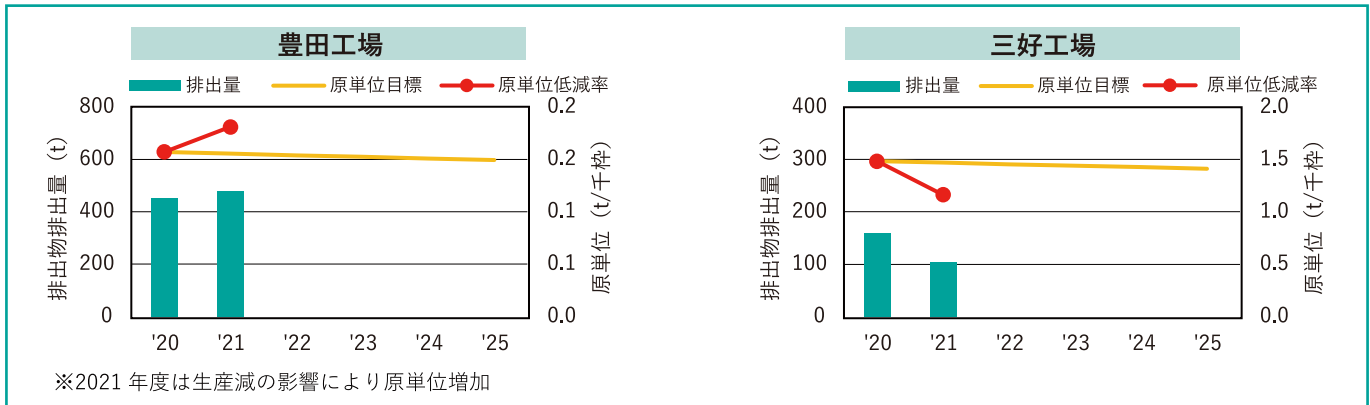


基本的には、基準値である 2013 年の排出量の約 13,500t-CO₂ に対し、2021 年は 10,200t-CO₂、約 24% 減と、2025 年目標に近い水準にまで低減いたしました。これは、半導体や物流などのサプライチェーンひっ迫による生産量の減少によるところも大きく、今後生産回復時にも低減できるよう、引き続き、生産効率の向上や省エネ活動の推進を図ります。



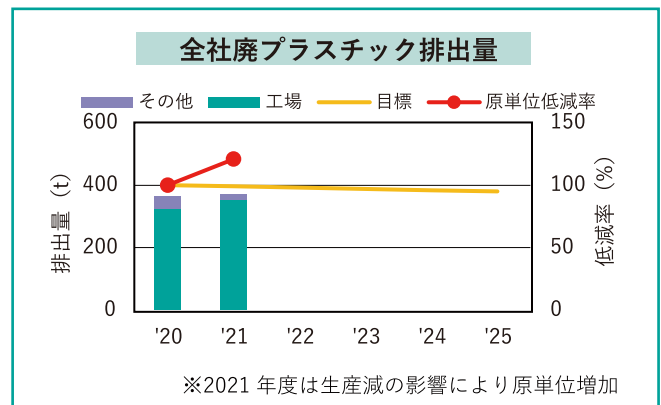
② 排出物低減と省資源

産業廃棄物処分場のひっ迫や廃棄物処理による温室効果ガス問題など様々な問題を重く受け止め、当社においても再資源化や廃棄物低減に努めています。2025 年までの排出量の目標として、原単位で毎年 1%低減を設定し、活動してまいりました。2021 年度は、半導体不足等による生産変動が生産効率に大きく影響し、豊田工場では 2020 年度に比べ、原単位が悪化してしまいましたが、不良率低減や歩留り改善など継続して活動を推進してまいります。三好工場では、塗装時のブツによる不良を再塗装などで修復し、廃棄低減に努め、2020 年度比 23.7% の大幅な低減となりました。



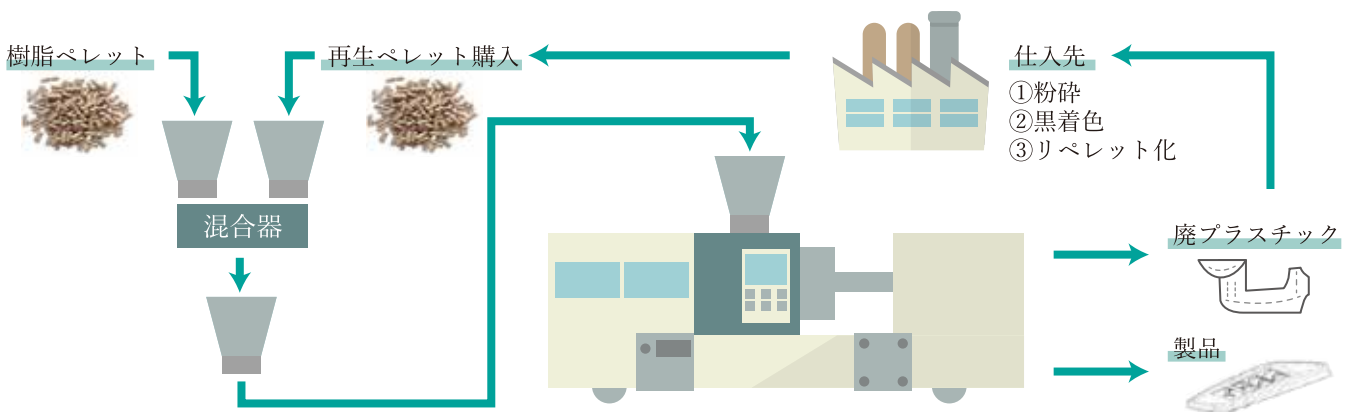
プラスチック資源循環法への対応

2022 年 4 月 1 日に施行されたプラスチック資源循環法を受け、プラスチックごみにおいても毎年 原単位で 1% 低減の目標を設定し、活動を開始いたしました。法律の施行に伴い、各事業所において、責任者を設置し、活動を推進しております。2022 年度には環境教育等により日常生活での廃プラ削減に向けた従業員の意識向上活動も取り組んでまいります。



廃プラスチックの再生利用の実現

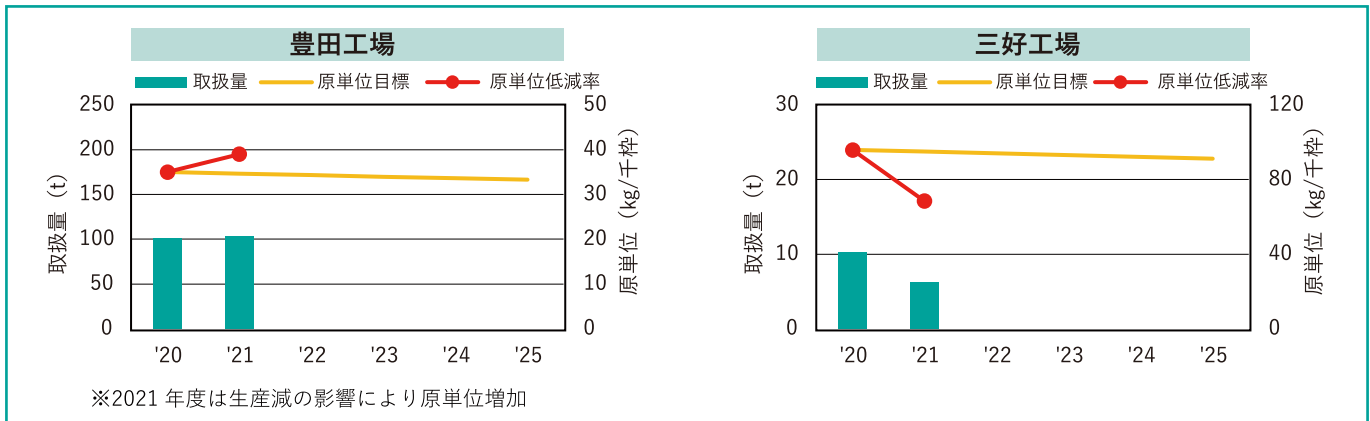
成形工程では、樹脂製品を金型で成形する際に発生するランナー（製品以外で残るプラスチック廃棄物）を再加工（リペレット加工）し、再度原材料に混ぜて再利用しています。今後も再生率の向上を図り、活動を推進してまいります。





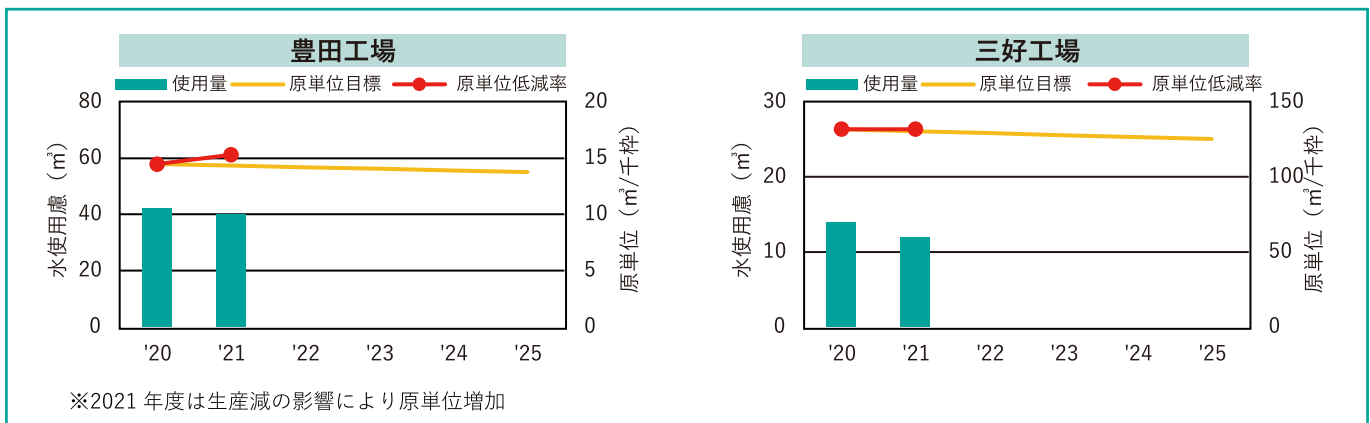
③ 環境負荷物質の管理・低減

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質の取り扱いについて、排出量や廃棄物に含まれる量を適切に把握し、管理しています。2025年までのPRTR対象化学物質取扱量の目標として、原単位で毎年1%低減を設定し、活動してまいりました。2021年度は、半導体不足などによる生産変動が生産効率に大きく影響し、豊田工場では2020年度に比べ、原単位が悪化してしまいましたが、塗装の色替え時の洗浄の効率化、不良低減、塗装の塗り方改善などにより、対象化学物質の低減に努めています。三好工場では、長年培った静電塗装技術の樹脂製品への採用に加え、iX塗装機（新型エアレス塗装機）の導入による塗着率向上などにより、目標を達成しています。



④ 水資源の節約と水質保全

水の過剰な使用や汚染物質の排水は、下流域に住む地域の暮らし、生物へ大きな影響を与えます。当社では、工場での水の使用量の低減に努めるとともに、法定の基準値より厳しい基準値の下、排水処理を実施しています。2025年までの水使用量の目標として、原単位で毎年1%低減を設定し、活動してまいりました。2021年度は、半導体不足等による生産変動が生産効率に大きく影響し、豊田工場では2020年度に比べ、原単位としては悪化してしまいましたが、新ラインへの水使用量「ゼロ」の塗装ブース（ドライ集塵）の導入やブース空調の加湿効率を高めて、排水「ゼロ」にするなど、水使用量低減に努めています。



また、生産工程から排出される水は、排水処理を施し、川へ放流していますが、自然環境や生態系に配慮し、法令で定められた基準より厳しい基準値を順守しています。また、豊田工場の工程で使用された水は、排水処理した後、一部をトイレの水などに再利用しています。

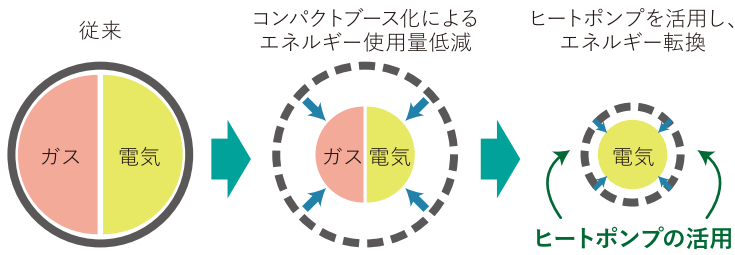


排水処理場での確認風景

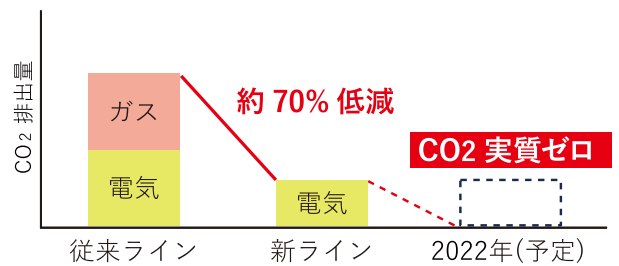
オール電化塗装ラインの新設による CO₂ 排出量実質ゼロを実現

2021年7月に、豊田工場において設備事業部の技術と自動車部品部門のモノづくり技術を融合した、オール電化塗装ライン（第7塗装ライン）を新設しました。従来の塗装ラインのエネルギーは、電気とガスを使用していましたが、コンパクトブース化などにより、エネルギー使用量低減となり、更にヒートポンプを活用し、オール電化へのエネルギー転換を実現しました。従来のラインに比べ、CO₂ 排出量が70%低減となり、2022年度には残りのエネルギーについて、再エネを導入し、CO₂ 排出量実質ゼロのラインを目指していきます。

オール電化塗装ラインの技術



ライン全体の CO₂ 排出量 概念図



ブースのコンパクト化

ブースをコンパクトにしたことで、空調エネルギーが低減され、CO₂ 排出量低減

従来	新開発	効果
床置き塗装ロボット ブース断面積：9 m ² 空調 移載コンベア 水を使った集塵	壁掛け塗装ロボット ブース断面積：5 m ² 空調 移載ロボット (ブース外設置) ドライ集塵 (負荷が小さい)	床置きから壁掛けにすることでブース断面積が45%小さくなり、ブース空調が低減 約60%低減

ヒートポンプの活用

ヒートポンプを活用し、ガスから電気にエネルギー転換

	従来	改善後	効果
塗装ブース	電気、ガス 冷凍機 スチーム 冷却、加温、加湿 空調設備 塗装ブース	電気 ヒートポンプ 加温、加湿、高圧、冷却 空調設備 塗装ブース	約55%低減
乾燥炉	ガス スチーム 熱交換機 ワーク 乾燥炉	ヒートポンプ 電気 熱交換機 ワーク 乾燥炉	スチームレスによりオール電化 約56%低減

📢 コンプライアンス遵守

産業廃棄物処理業者の現地確認

産業廃棄物の処理を委託しているすべての処理業者について、実際の処理の状況や書類の管理状況などを毎年、確認しています。新型コロナウイルスの感染防止対策を実施の上、2021年度も現地確認を実施し、問題ないことを確認しました。



📢 環境リスク低減活動

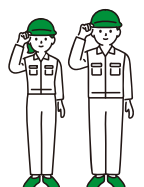
環境異常処置訓練

環境事故発生時の迅速な情報伝達と対応を図る為、環境リスクのアセスメントを行い、起こりうる状況を想定した訓練計画を立て、異常処置訓練を定期的に行っています。2021年7月30日に実施した訓練では、「豊田工場の廃水処理場の配管より汚水が漏れ出し、雨水側溝から汚水がオーバーフローした」という想定で実施しました。作業手順の確認や実際に側溝に土のうなどでせき止める訓練、放流口のバルブを止める訓練を行い、万一の場合に備えています。



特殊災害対応訓練

三好工場では、尾三消防署に来ていただき、特殊災害対応訓練を実施しました。特殊災害とは、化学物質の漏洩などが原因で起こる災害で、当社は塗料などの危険物を取り扱う事業者として、万が一災害が発生してしまった場合に備え、消防士の指導の下、訓練を行っております。危険物倉庫で災害が発生したことを想定し、避難方法や消防への通報、消防士の誘導、初期消火などの訓練を実施しました。また、実際に消防車が来て、上空からの放水訓練も実施しました。まずは、災害を発生させないよう安全第一で取り組むとともに、災害対応できるよう、社員の訓練にも努めてまいります。





📷 地域貢献活動

近隣地区自治会との交流会・災害時の協定締結

豊田工場では、地域とのコミュニケーションを図る場として、近隣地区自治会（桂野町、中垣内町、加茂川町、宮石町、奥殿町）の役員の方々をお招きし、毎年懇談会を実施しています。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できませんでしたが、感染が収束した際には、また意見交換の場を設けて、地域との連携強化を図りたいと考えています。また、災害時の避難場所として豊田工場をご利用いただく協定を締結しております。避難いただいた際の防災備品についても準備し、毎年管理しております。備品については、使用期限を考慮して一部豊田市の社会福祉協議会を通じて寄付し、廃棄としないよう留意しています。



災害時の協定書



防災備品（社員及び地域住民用）

地域美化活動

地域の環境美化活動に合わせ、毎年6月と9月に豊田工場周辺の草刈り及び清掃活動を実施しています。また、4月は新入社員を迎え、環境教育の一環として、豊田工場から奥殿陣屋までの周辺道路でゴミ拾い活動を実施しています。



交通安全立哨

自動車関連会社として、交通事故を発生させない為、毎月、10、20、30日の「0の日」に会社付近の交差点で交通安全立哨活動を実施しています。安全安心な地域社会づくりに向けて、定期的に活動を実施してまいります。



『まちかど救急ステーション』の設置

本社・豊田工場・三好工場にAEDを設置し、救急の際に使用できるよう、消防署の方に来ていただき、普通救命講習を受講しています。また、本社と豊田工場においては、豊田市のまちかど救急ステーションに登録し、地域の方がいつでもご利用できる状態となっております。

『まちかど救急ステーション』
登録事業所です。
(この事業所には、AEDを設置しています)

緊急の場合は下記まで、ご連絡ください。

健康管理室	阿知波	89-1743
健康管理室	岩田	89-3032
守衛		4015

利用時間：月～金曜 8:30～17:30
(当社営業日に限る)







📷 社会福祉活動

フードドライブ》》

フードロス無くすため、社員の家庭で余っている食品を集めて、福祉団体や NPO 法人に寄付するフードドライブ活動に参加しました。2021 年度は 6 月と 10 月の年 2 回参加し、缶詰やインスタント食品、お菓子などを豊田市社会福祉協議会を通じて、生活困窮者や子ども食堂の支援に活用していただきました。



健康づくりを通じた人道支援》》

社員の健康意識向上を目的として、社内に「健康に配慮した飲料水」を扱うカフェコーナーを設置しました。その売上の一部をユニセフを通じて募金をしています。安全な飲み水の確保や救急医薬品等々の支援に活用していただきました。



📷 地域行政との協働

豊田市『環境の保全を推進する協定』》》

豊田市と「公害防止協定」を昭和 60 年に締結し、公害防止に努めてきました。また事業者と市との共働による持続可能な社会の構築に取り組む為、平成 21 年に「環境の保全を推進する協定」に名称を改め、再締結し、平成 31 年 3 月 31 日に更新しています。

毎年、敷地境界の振動や騒音、臭気を測定し、基準値内を維持していることを確認しております。また、「緑のカーテンプロジェクト」に参加し、地球温暖化防止の推進として、朝顔やゴーヤなどを植えて緑のカーテンを設置しています。



📷 SDGs 強化月間

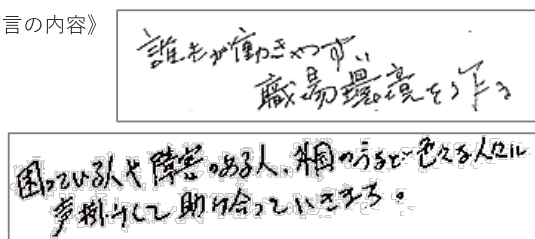
国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に向けて、世界中で取り組みが進む中で、当社においても活動を推進しております。2021年度は、社員一人一人が「SDGs」について、自ら考え・行動するため、2021年11月を「SDGs 強化月間」とし、標語・ポスターの募集など啓蒙活動を行いました。

SDGs 強化月間の取り組み内容

01 「私の SDGs 宣言」

自分たちに出来ることから実施してもらうために、仕事や家庭で実践できる SDGs を宣言してもらい、意識向上を図りました。

《SDGs 宣言の内容》



02 標語・ポスターの募集

SDGsの取り組みを従業員に広く知っていただくため、標語やポスターを社員の皆さんとそこご家族から募集し、啓蒙活動に使用しました。



📷 環境月間

ライトダウンキャンペーン

2021年度は、6月9日、16日、23日を全社一斉定時退社日と設定し、全事業所にて定時後、事務所内のすべての電気を消灯し、CO2低減への意識向上を図りました。



サステナブルシーフードの提供

生物多様性について身近に感じてもらう、興味をもつきっかけになるように、MSC 認証や ASC 認証を取得した水産物である、サステナブルシーフードを使ったメニューを社員食堂で提供しています。



📷 教育

SDGsについて一人ひとりが理解し、活動できるように、新入社員にトリニティのSDGsの取り組みについて教育を実施しました。一人ひとりの環境への理解を深めるために、今後は、各階層別教育にも織り込み、意識向上を図ります。



第三者意見

一般社団法人中部 SDGs 推進センター
副代表理事 百瀬則子



2021 年は、前年から続く新型コロナウイルス感染症拡大と 2022 年にはウクライナ紛争という世界的な危機の影響が、社会に大きな影響を与えました。その中で、気候変動というもう一つの危機は滞ることなく進み、気候災害が世界で起こっています。こうした背景の中で、トリニティ工業は持続可能な未来に向けて、「**環境に配慮した設備開発と展開**」「**自動車部品生産における環境負荷低減活動**」を進め、更に**地域社会貢献活動**に取り組んだことを記載した環境報告書 2022 を作成しました。

私はこの報告書の記載内容をインタビューや記録の点検により、トリニティ工業の事業及び環境・社会貢献活動が、持続可能な社会構築を目指したものであることを確認しました。

今年の社長環境メッセージには「**技術の力で地球環境問題に取り組み、持続可能な社会に貢献する**」とあり、地球温暖化対策やサーキュラーエコノミー、SDGs・ESG などへの取り組みを加速すると、力強く宣言されています。

そしてトリニティ工業は、ESG に対する**サステナビリティ方針**を策定し、更に**トリニティ環境基本方針**に基づく**SDGs の重点項目**を掲げ、**持続可能な企業**をめざしています。

今年のトップニュースは、**トヨタ自動車から「環境推進優良賞」と「技術開発賞」を受賞**したことでしょう。「**環境推進優良賞**」は、トリニティ工業が中期ビジョンを改定し、「サステナビリティ方針」を策定し、カーボンニュートラルへの具体的な取り組みに対する受賞です。また、「**技術開発賞**」は、**塗装工程で培った技術により、溶接工程で発生するヒューム（金属粉じん）を効率良く取り除く技術と火災事故を未然に防ぐ設備開発に対する受賞**でした。

これは本業を通して脱炭素社会を目指し、さらに作業の

効率と安全性を実現した技術開発が高く評価されたものです。

自動車部品生産拠点である、豊田工場及び三好工場においては、2021 年の ISO14001 更新審査を無事に完了しました。環境取組プランでは、「地球温暖化防止」「排出物低減と省資源」「環境負荷物質の管理・低減」「水資源の節約と水質保全」を目標に掲げ、2021 年から 5 年間での達成を目指しています。

2021 年の結果は、CO2 削減や廃棄物排出量削減などの総量は達成しましたが、コロナ禍における半導体や物流などのサプライチェーンの問題による生産量減少などが原因で、原単位は逆に思わしくないものでした。生産回復後に結果が出せることを期待しています。

環境報告書で一番評価する項目は、「**オール電化塗装ラインの新設**」です。

これは豊田工場に新設された、**設備事業部の技術と自動車部品部門のモノづくり技術**を融合し、トリニティ工業の総合力でエネルギー効率向上により CO2 排出を大幅に削減し、さらにオール電化により、再生エネルギー導入でカーボンゼロを実現する画期的な取組です。今後もこうした総合力を発揮した取組を進め、トリニティ工業が持続可能な企業となることを期待しています。

社会貢献活動では地域社会と災害時の協定を締結し、日常では美化活動や交通安全立哨を行うなど、地域社会にとって頼りになる存在であることを確認しました。

また、持続可能な社会を目指すトリニティ工業を支える従業員の皆さまが、SDGs を自分ごととして捉え、さらにご家族も参加する啓発活動を積極的に推進していることを評価いたします。

今後も地球環境保全に貢献するものづくりと地域貢献活動により SDGs に貢献し、持続可能な未来に活躍する持続可能なトリニティ工業であることを期待しています。



環境報告書 2022

<お問い合わせ先>

トリニティ工業株式会社

サステナビリティ推進室

TEL：0565-24-4818 FAX：0565-24-4822

当社ホームページより閲覧できます。

URL：<http://www.trinityind.co.jp>

報告書の対象範囲

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日

一部、対象期間以前、もしくは以後の活動内容やグループ会社の活動内容も含まれます。